

## I 学校の概要

外国語教育推進モデル校事業

丸亀市立飯山中学校

## ◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
4学級 134名	4学級 135名	4学級 137名	6学級 19名	18学級 425名

○教員数 52名

## ◆学校の特徴

本校では、丸亀市内の他の中学校に先がけて、令和6年度からオンライン英会話を実施した。フィリピン講師を相手に生徒2～3人ずつが1グループになり、英語でのやり取りを年5回実施した。内容は、食事やスポーツなどの身近な題材についての短いフリートークから始めて、既習の文法事項を使った音読練習や口頭での英作文練習を行った。今年度も各学年で年3回実施した。

オンライン英会話に臨む生徒の様子は、真剣な表情で画面を注視したり、講師の話を聴いたりして、講師の質問に反応しようと努めていた。回を重ねるごとに聞き取れる英語量が増え、海外の人とのリアルな会話に対しての心理的な負担は少なくなった。また、言いたいことが英語で伝わったと充実感を得たり、会話を続けるにはもっと英語力をつける必要があると学習意欲が増したりして、英語学習への興味関心が高まった生徒が多かった。本事業を通して、英語でやり取りすることに対する意欲をさらに高め、実践的な場面で生かせる英語力の向上につなげたい。

## II 研究主題等

研究主題 「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動 及び  
生徒の学習意欲を高める指導の在り方の工夫

## ◆研究主題設定の理由

昨年度に実施したオンライン英会話での生徒の感想では、自分の伝えたいことが英語で伝わった喜びを実感できた生徒が多くいた一方で、講師の話している英語がまったく聞き取れず、ずっと無言ですぐすという悔しい思いを経験した生徒や、自分の思いをうまく伝えられずに、「分からない時に“もう一度言ってください”と頼みたい」「次は自分から質問をしてみたい」「相づちや反応を自然にできるようになりたい」と自分の課題や目標を主体的に意識できた生徒も多く見られ、具体的な場面をイメージして活動や学習に取り組むようになった生徒が多くなったと感じた。

オンライン英会話は大人の講師との対話であるため、生徒の返答やつまづきを予想し対応してくれる。しかし本事業の国際交流オンライン英会話では、海外の小中学生とリアルタイムでやり取りを行うため、楽しみや期待感が大きい反面、不安な要素も多くある。自分の意見や考えなどを伝え合うことができる実践的な英語力を育成するため、本研究主題を設定し、生徒の英語による発信力の向上や英語学習への意欲向上を目指したい。

◆研究内容及び方法

- 1 生徒の学習意欲を高める指導の工夫
- 2 「やり取り」・「即興性」を意識した Small Talk の工夫と継続
- 3 ALT 2 人の積極的な活用
- 4 実践でのやり取りで、生徒が自分自身の成長を実感

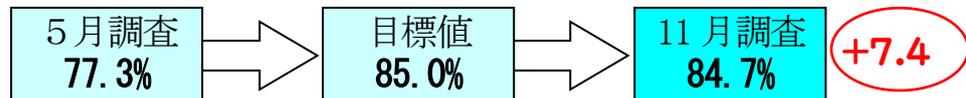
Ⅲ 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組み

1 (生徒質問紙)

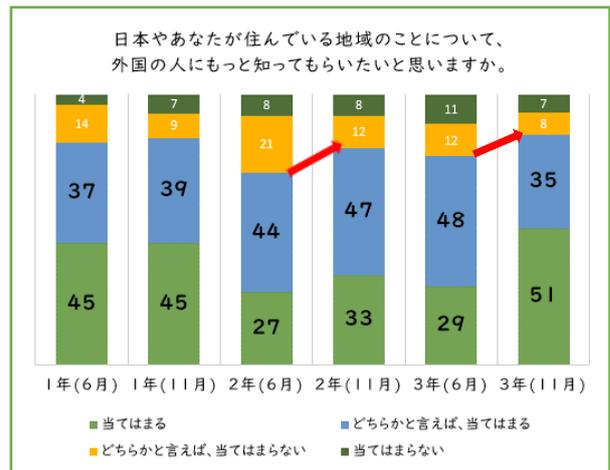
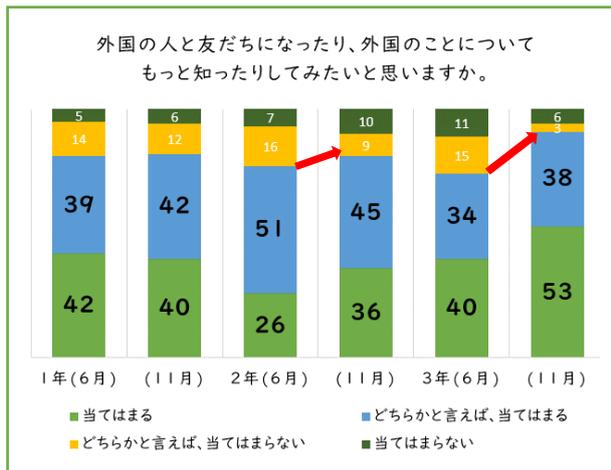
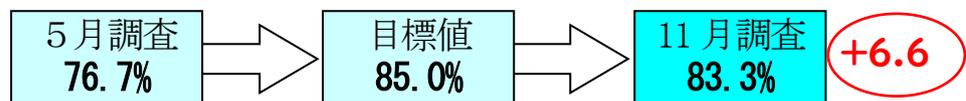
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」

指標 「①当てはまる+②どちらかといえば当てはまる」の合計



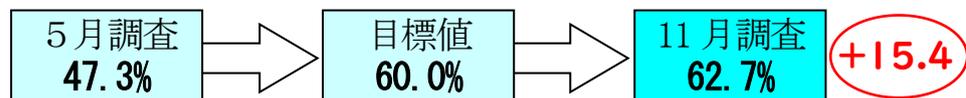
2 (生徒質問紙) 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」

指標 「①当てはまる+②どちらかといえば当てはまる」の合計



3 (生徒質問紙) 「学校の授業時間以外で、普段どの程度英語に触れていますか。」

指標 「①毎日+②週2～3回」の合計

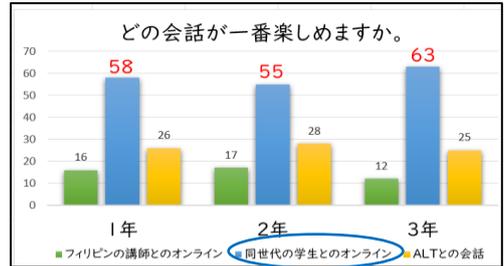


◆指標の達成に向けた実践

同世代の学生とのオンラインが一番人気!

1 生徒の学習意欲を高める指導の工夫

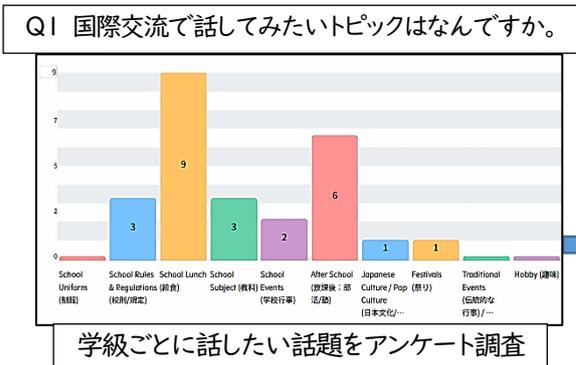
そもそも生徒は、フィリピン人講師とのオンライン英会話やALTとの会話よりも、同世代の学生とのオンライン英会話が楽しいと感じている。同世代という安心感があり、アニメや音楽など共通の話題が多いため話が盛り上がっている。また、映像を通して他国の制服や言葉などを知る、生の異文化体験はこれからの英語学習にとって大きな意欲付けになり、自立した学習者への大きな一歩となっていた。



(1) 生徒が話したい話題&話したい話題ごとにグループ分け

話したい話題ごとにグループ分けを行い、生徒の話したい思いを大切に準備を進めた。

“Let’s enjoy Online 英会話”



話したい話題ごとにグループ分け

(2) 相手を楽しませる工夫 “Let’s make them enjoy!”

相手意識をもったやり取りを意識すると、伝え方や内容が変わってくる。1回目の交流やオンライン英会話を通して、分かりやすい伝え方の工夫が必要なのに気づき、リアクションや笑顔、うなずきやジェスチャーなどの非言語コミュニケーションの大切さを実感しているので、相手意識をもってやり取りすることで会話がより盛り上がるようになった。聞き取れる量が少ない1年生でも、相手の話を諦めずに最後まで聞こうとする態度が見られるようになった。



3 Hint Quiz を活用して発表



笑顔やジェスチャーを交えて

(3) Reaction Sheet や Small Talk で、自分の成長を実感

Bingo Sheet に使いたいリアクションを書き出し、より多くの種類のリアクションを使う意識をもたせた。回を重ねるごとに使える種類や回数が増えたことを生徒自身が実感し、次回への意欲付けにもなった。

また、使ったリアクションを確認することで、自分の使うリアクションの好みや偏りを把握し、多量のリアクションを使うように促した。Reaction Sheet に非言語コミュニケーションも合わせて載せ、リアクション同様、常に意識して行うよう配慮した。

Let's react & respond!		
<9/2(火)~9/10(水)>		
Wow!	(That's) Nice / Good!	
Oh, I see.	Cool / Great!	
Really?!	Wonderful!	
No! No!		
(That's) nice/good/cool!		
wonderful/great!		
Sounds good/nice/great!		
interesting!		
相手が出たことか	繰り返し	
相手が出たことか	繰り返し	
How about you?!		
Yes - No Questions!		
Ask Me Questions!		
Tell me more!		

◆指標の達成に向けた実践

ALT2人による Small Talk や前時の復習

2 Small Talk の工夫と継続

(1) 教員同士の Small Talk

生徒の聞き取る力をつけるためには、教師の英語発話量UPは必須であるため授業始めに必ず行った。JTE と ALT、ALT 2人だけ、JTE や ALT と生徒などやり方や話題を変えながら行った。教師たちの Small Talk を聞くことで、リアクションや質問の仕方を学んだり、ALT にある程度まとまりのある内容話を話してもらうことで、多少理解できない内容でも粘り強く聞こうとする姿勢を身に付けられたりする。



(2) 生徒同士の Small Talk

- ① 4回1セットで実施：同じ話題で相手を変えて3回行う。  
4回目は WorldClassroom のアプリ (A I シーサー) とのやり取りで成長を実感。

AI とのやり取り(各自のレベルで)



- ② 9boxes で話したい内容を整理する。
- ③ Mapping で話の広げ方を考え、質問や話す順番を確認する。  
5W1Hの質問例を提示する。
- ④ Reaction Sheet を活用して、会話を盛り上げる。(相手意識をもって)  
Questions を活用して、話の内容を広げる&深める技を習得する。
- ⑤ やり取りを録音する。→ 話した内容を Mapping で文字に起こす。→ 振り返る & 次回に生かす。

**Small Talk**

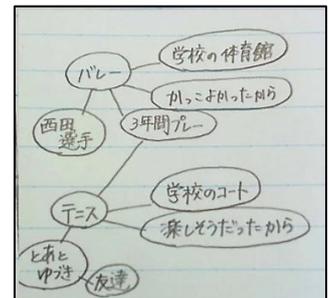
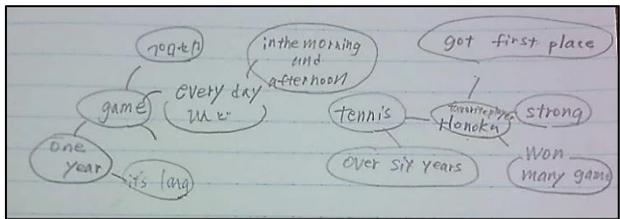
**Topic: What is your hobby?**

Name: 自分の名前      Name: ペアの名前      4

たたくの ゲーム	大抵の 音人	好きな ゲーム	Smartphone every day	ゲーム	ゲーム
学校の ネットを 練習する	Tennis	毎朝 ジョギング	ゲーム	ゲーム	ゲーム
水泳	サッカー	1週間 ジョギング	ゲーム	ゲーム	ゲーム

9 boxes      9 boxes      9

Mapping



回を重ねるごとに、マッピングの広がりが大きくなっている → 自分の成長や会話の広がりを視覚化

ロイロで毎回の Small Talk を録音

(3) よく使われる表現集  
教科書(Sunshine)の“Steps”のページが大活躍した。それ以外にも、Reaction Sheet や質問例を活用し、会話を盛り上げる練習を行った。

【1~9】驚き・関心を示すとき

- Really? - 本当に?
- Wow! - わあ!
- No way! - うそ!マジで?
- Oh, I see. - ああ、なるほど
- That's cool! - それ、かっこいいね!
- Interesting. -面白いね
- Oh, wow! - わあ、すごい!
- You're kidding! - うそでしょ!
- What?! - えっ!?

【10~18】共感・同意するとき

- Yeah. - うん
- I know. - わかるよ
- Exactly. - まさにその通り!
- Me too. - 私も
- Some here. - こっちも同じ!
- Totally! - ほんとそう!
- That's true. - それは本当だね
- Right. - だよ
- I think so too. - 私もそう思う

【19-24】聞き返す・話を促すとき

- Really? - 本当に?
- And then? - それどうなったの?
- What happened? - 何が起きたの?
- Tell me more. - もっと教えて
- Seriously? - マジで?
- Sorry? - すみません、何と書きましたか?

【25-27】励まし・共感・残念なとき

- Good for you! - よかったね!
- That's too bad. - それは残念だったね
- Don't worry. - 心配しないで

28. Repeating - 繰り返し  
29. Yes-No Questions  
30. SWIH Questions  
31. Smiles  
32. Gestures  
33. That's... - ...だね  
34. Sounds... - ...そうだね

Steps 3 会話をつなげ、深めよう

1 拓がエマに、好きな人物について話しています。会話を続けよう表現を確認しましょう。

I like Tokugawa Ieyasu.

Oh, do you? [Ieyasu? / Oh, really?]

Who is Ieyasu?  
Is he a singer [a scientist / your friend]?

Why do you like him?  
Tell me more about him.

2 を参考に、会話を続ける練習をしましょう。

① ペアになり、ジャンプをします。

② 思った人は下部まで来て、好きな人物について話しましょう。

③ 相手、スボーツ選手、歴史上の偉人など

④ 好きな人はそれに答え、会話を続けましょう。

◆指標の達成に向けた実践

3 ALTの積極的な活用

(1) 給食時の英語による放送

ALT 2人による放送“Hanzen Spot Light”を、昨年度から隔週で行っている。ネイティブスピーカーによる自然なスピードでの会話は、初めほとんどの生徒が聞き取ることができず、興味はあるが最後まで粘り強く聞き取ろうとする生徒はわずかであった。そこで、まず放送内容を各フロアに掲示したが、興味のある生徒は昼休み等に読んでいる程度で効果は低かった。そこで、授業で放送内容を確認したり、放送時に文化委員の生徒が加わり、時折日本語を交えながら放送を始めた。放送に生徒が加わり日本語を交えて放送し始めたことで、内容が理解しやすく最後まで静かに聞く生徒が増え、担任と放送内容について話す姿も見られるようになった。また、「自分も加わりたい」と自主的に放送に加わり、ギターで弾き語りを披露した生徒もいた。色々試行錯誤を重ね、現在の形に落ち着いている。



(2) 放課後や昼休みの交流

放課後には部活動に積極的に参加し、生徒との交流を楽しむALTの姿がよく見られる。昼休みにも、おしゃべりをしたり、サッカーやテニスをしたりして過ごしている。自然な交流の中で緊張することなく英語や日本語を使って交流しており、そのおかげで、授業でもいつも通り自然にやり取りを行うことができ、大変助かっている。英検の面接練習にも積極的に取り組んでくれ、毎回、自分から練習を頼んでいる生徒も多い。



## ◆指標の達成に向けた実践

### 4 実践の場でのやり取り

#### (1) フィリピン人講師とのオンライン英会話（年3回）

2年目の取り組みということもあり、表情が柔らかい生徒が多い。1年生は1回目より3回目は余裕が生まれ、会話を楽しむワクワク感が大きくなった。また、「自分から質問したい」「趣味について聞きたい」「リアクションを頑張りたい」など、自分の目標を意識して取り組んでいる生徒が多くなった。無言の状態の怖さを経験したから、自分が見える表現を増やして準備するなど、会話が弾むよう努力している姿が見られた。基本2人1ペアで行うが、1人でやり取りしたい生徒も増加している。



#### (2) 姉妹都市とのリアルな交流

ドイツのビリッヒ市長と秘書の方を迎えて、2・3年生は生の交流を経験した。Small Talk やオンライン英会話を通して身に付けた、英語のやり取りで必要な力を遺憾なく発揮し、即興で質問する姿が多く見られた。オンライン英会話やALTの先生たちとの交流が日常化しているおかげで、生徒たちの表情は非常に柔らかかった。緊張よりも、「話したい」「質問したい」「伝えたい」「知りたい」というワクワク感の方が大きかったようである。



#### (3) English Day の開催

昨年度、3年生でEnglish Dayを開催した。丸亀市内のすべてのALTが一同に介し、生徒たちは時間内に、2人のALTとやり取りを行った。教科書で学習した内容を使い、互いの国の伝統的なことについて紹介があった。即興でQ&Aを行い、互いの発表についてさらに理解を深めた。自分たちの国について「伝えたい」、様々な国について「知りたい」思いを積極的に行動に移している生徒が多かった。



## IV 研究の成果と課題

### ◆成果

- 「何を言よんかまったく分からんきん、何も話ができんかった」初めての交流で多くの生徒が気づいたことは、自分たちのリスニング力のなさであった。リスニング力がないと、会話を始めることすらできないと、悔しい思いをした多くの生徒たちは、「英語が話せるようになりたい」と目的をもって授業に臨むように変わった。また教師も、本気で授業中の英語発話量を増やさなければならないと実感できた。
- 即興でやり取りする経験を重ねるにつれ、英語で会話することへの抵抗感や緊張が薄まり、英語で「伝えたい」「質問したい」という意欲の向上へと変化していった。それにより、普段の授業から目的・場面・状況を意識しながら活動に取り組む生徒が増えた。
- Small Talk の活動では、生徒は次の授業でこう言いたいという気持ちで臨むようになった。自立的に学ぶ仕組みになっており、生徒は自分の成長を毎時間実感することができているようである。また、自分の考えを表現する場となっており、友だちの話を英語で聞くことも楽しんでいる。また、話した内容をマッピングすることは書く力の向上につながり、自分の話した内容を客観視することで、さらに適切な表現を使うことができるようになってきている。3年生では、即興のやり取りする力だけでなく、英作文の力もついてきていると感じた。質問に答え、もう1つ情報を付け加えるという具体的な目標を継続して取り組んだことで、英作文においても内容が広がり深まってきた。

#### <生徒の感想より(一部抜粋)>

- ・ “Step1 聞き上手になろう”で習った“What does ~ mean?”を使うことができた。
- ・ リアクションで“OK.”しか言えなかった。聞き取ることができず理解ができなかったから、外国の人の話すスピードや発音に慣れたい。
- ・ 前回よりも話が広がったし、リピートやリアクションもたくさんできてよかった。
- ・ 最後に「楽しかったです」と感想を伝えることができた。次はもっと難しめの表現も使ってみたい。
- ・ 聞き取れる英語が増えて、以前よりもリスニング力が上がったと感じた。語彙を増やしたい。文法を勉強する。
- ・ 前回よりもリアクションのバリエーションを増やして会話することができた。相手に伝わりやすい表現をしたい。



### ◆課題

- △ Small Talk の継続により、リアクションしたり質問したりすることはできるようになってきたが、相手のレスポンスに対して、会話を広げようとレスポンスすることができない。会話の不自然さが気になるが、質問したりリアクションしたりするのが精いっぱい、レスポンスへの意識が不十分である。また、レスポンスする技能もまだまだ不十分である。
- △ 国際交流オンライン英会話に向けて、普段の英語授業の中で準備を進めるのは、時数的に厳しいものがあつた。ただ1回目の交流の経験から、教科書の内容を生かして交流したり、Small Talk を日常化したりするなどして、2回目の交流に向けては2時間ほどの準備で済んだ学年もあつた。
- △ 「何を伝え合うのか」を考えたときに、自分の考えをもち、日本のことを知る(紹介できる知識を身に付ける)必要がある。多くの教員が関わり、教科横断的に取り組むことで、様々な視点から国際理解を深められると大きな可能性を感じた。